

# ニュース・レター

No. 34 2011年12月

## 目次

<a href="#">西澤由隆理事長挨拶</a>	1頁
<a href="#">2011年度総会議事録</a>	3頁
<a href="#">2011年度総会・研究会報告</a>	7頁
<a href="#">2010年度日本選挙学会賞</a>	12頁
<a href="#">『選挙研究』目次</a>	14頁
<a href="#">各委員会からのお知らせ</a>	18頁
<a href="#">理事会だより</a>	21頁
<a href="#">理事会議事録</a>	23頁
<a href="#">事務局だより</a>	35頁

## 「等身大」の学会を目指して

西澤 由隆

ニュース・レターの巻頭言などを必ずしも得意としない私にとって、今年号のそれは、より難しいものとなりました。それは、言うまでもなく、2011年3月の大震災と原発事故があったからです。9ヵ月がたった今でも、いまだに「日常」に戻ることはない会員のみなさんが多くいらっしゃることを思いますと心が痛みます。また、理事会のメンバーのみなさんにも、学会の運営に関わる多くのご負担をおかけしましたが、「想定外」の事態に、例年にないご負担をおかけしながらの学会運営となりました。その意味でも、ご協力をくださった会員のみなさんと各種委員会にてご尽力をいただきましたすべての方々に、まずは、お礼を申し上げなくてはなりません。

2011年5月の関西学院大学での総会・研究会には、震災後の「混乱」の中にもかかわらず、多くの参加者を得まして有意義な交流を持つことができました。そして、2012年5月19・20日に開催予定の筑波大学での大会に向けまして、鋭意ご準備を進めていただいております。また、このニュース・レターがホームページにアップロードされる頃には、『選挙研究』第27巻2号がみなさんのお手元に届いていることかと思いますが、この間に、いずれも興味深い論考とともに順調に号を重ねることができました。4サイクル目となります『選挙研究』の査読制度も、その運用が軌道に乗ってきたものと思っています。そして、3回目となる学会賞も、関係のみなさんのご尽力で、そのルール作りが進んでおります。若手の研究者に対する奨励の機会として、学会活動の重要な柱の1つとして定着

しようとしています。

また、ここ数年来、機能強化を進めてきました学会のオリジナルホームページですが、近々、『選挙研究』へのオンライン投稿システムがスタートをします。それが、安定的に機能するようになりますと、ホームページも、ひとまず「完成」ということになろうかと思っております。

そして、11月には、次期理事候補についての選挙が行われました。これもまたご担当のみなさんのご尽力と会員のみなさんのご協力で、理事候補のみなさんを無事に選出いただきました。次期理事会へのトランジションもスムーズに進むものと確信をしていますことをご報告いたします。

学会の30年を昨年のニュース・レターでふり返りましたが、この間に、学会の機能はずいぶんと充実をしてきました。2年近くにおよび、学会運営をお手伝いさせていただき、この学会の活動がいかに多岐に及んでいるかを実感しました。そのいずれもが、知的交流のプラットフォームとして、その役割を学会が果たすために不可欠な機能を担っています。そして、そのために関係のみなさんが尊いご献身をくださっていることに感謝をいたします。じつに、多くのエネルギーが、この学会活動のために捧げられています。

ところで、ここまで選挙学会が発展をしてきたことを喜ばしく思います一方で、一度、このあたりで立ち止まり、学会活動の「総量」を顧みる時期に差しかかっているのではないかと感じます。もし、各種委員会でご尽力くださっているみなさんが、『選挙研究』への投稿論文を執筆する時間を学会活動のために「犠牲」にされているとしたら、それは本末転倒と言わざるを得ないと思うからです。

今回の「3.11」では、政治の重要性、とりわけその「即応性」の重要性を多くの国民が再認識をしたことでしょう。そして、選挙に関連した政治過程・制度・思想・歴史に関心を寄せる私たちの研究活動の真価が、今までに増して問われているものとも思います。その活動のプラットフォームとして、「等身大」の選挙学会がますます充実しますように、残る任期中も検討を続けて参ります。どうぞ、みなさんもお意見をお寄せくださいますようお願いをいたします。

(にしざわ よしたか・同志社大学法学部教授)

[目次へ](#)

## 2011 年度総会議事録

2011 年度の総会は、2011 年 5 月 14 日（土）に関西学院大学（大会運営委員長＝山田真裕理事）にて開催されました。

日 時：2011 年 5 月 14 日（土） 17 時 45 分～18 時 30 分

場 所：関西学院大学 上ヶ原キャンパス

### 1. 理事長挨拶

議事に先立ち、西澤由隆理事長より挨拶があった。

### 2. 開催校挨拶

山田真裕大会運営委員長より、大会開催校を代表しての挨拶があった。

### 3. 各委員会活動報告

#### ■ 企画委員会

平野浩委員長より、2011 年度研究会初日が順調に進行した旨の報告があった。

#### ■ 年報編集委員会

増山幹高委員長より、年報第 27 巻 1 号、2 号の編集状況および内容に関する説明があった。

#### ■ 学会賞選考委員会

河野勝委員長より、2010 年度学会賞の選考結果が発表された。

### 4. 2010 年度決算・監査報告

今井亮佑事務局長より、2010 年度決算に関する報告があった。経常部分総額 13,585,253 円、特別会計の年報発行準備金総額 10,251,289 円からなる 2010 年度決算が承認された。

### 5. 2011 年度予算案について

今井事務局長より、2011 年度予算案について趣旨説明があり、経常部分総額 13,714,147 円、特別会計の年報発行準備金総額 10,253,789 円からなる 2011 年度予算案が原案どおり承認された。

### 6. 2012 年度総会・研究会の開催について

竹中佳彦 2012 年度大会運営委員長より、挨拶と同大会の準備状況に関する報告があっ

た。

## **7. 2013 年度総会・研究会の開催について**

今井事務局長より、2013 年度総会・研究会を京都大学で開催することが報告された。

## **8. 会費払込手数料について**

今井事務局長の説明により、年会費の振込手数料を 2012 年度より振込者（会員）負担とする形に変更することが提案され、これが承認された。

## **9. その他**

14 日の理事会において、7 名の入会が承認された旨、今井事務局長より報告があった。

以 上

### 2010 年度 決算報告

収 入		支 出	
	(円)		(円)
前年度からの繰越金	6,408,568	総会・研究会費	500,000
寄付（櫻田会）	1,400,000	委員会・事務局活動費	950,000
科学研究費助成金	1,100,000	事務委託費	803,261
会費等（含、バックナンバー販売）	4,595,250	会議費	0
委員会活動費返却分	80,000	通信費	18,110
利子	1,435	ウェブサイト作成・開発費	130,515
		学生アルバイト費	0
		謝金	100,000
		韓国選挙学会との交流費	100,000
		学会賞賞金	180,000
		印刷費	3,470,676
		文具費	6,919
		雑費	13,125
		次年度への繰越金	7,312,647
合 計	13,585,253	合 計	13,585,253

### 年報発行準備金

収 入		支 出	
	(円)		(円)
前年度からの繰越金	10,248,742	次年度への繰越金	10,251,289
受取利息	2,547		
合 計	10,251,289	合 計	10,251,289

2011 年（平成 23 年）5 月 14 日

以上の通り相違ありません

監事 河野 武司  
監事 堤 英敬

### 2011 年度 予算案

収 入		支 出	
	(円)		(円)
前年度からの繰越金	7,312,647	総会・研究会費	500,000
寄付（櫻田会）	1,400,000	委員会・事務局活動費	1,000,000
科学研究費助成金	1,000,000	事務委託費	850,000
会費等（含、バックナンバー販売）	4,000,000	通信費	20,000
利子	1,500	ウェブサイト作成・開発費	850,000
		学生アルバイト費	10,000
		謝金	85,000
		韓国選挙学会との交流費	100,000
		学会賞賞金	180,000
		印刷費	3,500,000
		文具費	10,000
		雑費	30,000
		予備費	600,000
		次年度への繰越金	5,979,147
合 計	13,714,147	合 計	13,714,147

### 年報発行準備金

収 入		支 出	
	(円)		(円)
前年度からの繰越金	10,251,289	次年度への繰越金	10,253,789
受取利息	2,500		
合 計	10,253,789	合 計	10,253,789

[目次へ](#)

## 2011 年度総会・研究会報告

2011 年度日本選挙学会総会ならびに研究会は、2010 年 5 月 14 日（土）・15 日（日）に関西学院大学で開催されました。

第 1 日 5 月 14 日（土）

### ◆分科会 A・B・C（10 時 00 分～12 時 00 分）

#### 分科会 A 比較部会（アジア） 「Elections in Korea and Taiwan」

司会者：待鳥 聡史（京都大学）

報告者：黄 紀（国立政治大学）

「Forgetful Voters and Remindful Politicians: Political Cycle of Voters' Knowledge of the New Electoral System in Taiwan」

俞 振華（国立政治大学）

「The Electoral Effect of Voter Turnout in Taiwan: Who Benefits from a Low Turnout in the 2009 Local Election?」

趙 誠帯（韓神大学）

「A Spatial Analysis of Cleavages and Party Systems: the Presidential Elections in South Korea, 2002 and 2007」

討論者：待鳥 聡史（京都大学）

#### 分科会 B 法律・制度部会 「政党内選出制度とその帰結」

司会者：白鳥 浩（関西大学）

報告者：庄司 香（学習院大学）

「予備選挙とインフォーマルな選抜—アメリカ政党の候補者指名をめぐる考察—」

鶴谷 将彦（立命館大学大学院）

「候補者選定過程に見る政党組織の中央地方関係—2010 年参院選における民主党を事例に—」

討論者：浅野 正彦（拓植大学）・渡辺 博明（大阪府立大学）

#### 分科会 C 社会心理部会 「インターネット解禁に伴う選挙運動の変化」

司会者：川上 和久（明治学院大学）

報告者：岡本 哲和（関西大学）

「インターネットの解禁は選挙キャンペーンをどのように変えるのか—実証研究からの予想—」

小林 哲郎（国立情報学研究所）

「ネットニュースと政治的知識—Yahoo! JAPAN における閲覧ログデータを用いて—」

萩原 雅之（マクロミル ネットリサーチ総合研究所）

「インターネット調査による世論観測の試み—2010年、有権者心理はどう動いたか—」

討論者：岡田 浩（金沢大学）・三浦博史（アスク株式会社）

◆理事会（12時05分～12時55分）

◆分科会D・E・F（13時00分～15時00分）

分科会D 歴史部会 「日本政治史における「政権交代」」

司会者：玉井 清（慶應義塾大学）

報告者：小宮 一夫（日本学術振興会） 「明治期の政権交代をめぐる政治言説」

清水 唯一朗（慶應義塾大学） 「政界再編と政権交代—第二次護憲運動による構造変化—」

小宮 京（桃山学院大学） 「日本国憲法のもとでの「政権交代」—吉田茂政権の崩壊過程の再検討—」

討論者：季武 嘉也（創価大学）・奥 健太郎（東海大学）

分科会E 議会・政党・政策形成部会 「日本の政党組織の現状と類型論との対応」

司会者：丹羽 功（近畿大学）

報告者：品田 裕（神戸大学） 「地方政治における県議の活動と政党組織—選挙に関する活動の現状と『政党化』の兆しについて—」

藤村 直史（神戸大学） 「大統領制の議院内閣制化：岡山県を事例とした政党の都道府県組織と地方政治」

笹部 真理子（学習院大学） 「群馬・静岡両県における自民党の地方組織」

討論者：中北 浩爾（一橋大学）・逢坂 巖（立教大学）

分科会F 公募報告セッション 「選挙研究の新潮流」

司会者：森脇 俊雅（関西学院大学）

報告者：福元 健太郎（学習院大学） 「Making Votes Count, Incorrectly: An Application of Benford's Law to the Japanese Elections」

松林 哲也（University of North Texas）・上田 路子（California Institute of Technology）

「市町村議会における女性の政治参入」

杉田 弘也（神奈川大学） 「Two-partismの終焉か—オーストラリアの2010年連邦総選挙—」



討論者： 名取 良太（関西大学）・中村 悦大（愛媛大学）

◆共通論題（15時15分～17時45分）

「2010年参院選と「政権交代後の選挙」」

司会者： 西澤 由隆（同志社大学）

報告者： 今井 亮佑（首都大学東京）・日野 愛郎（早稲田大学）

「二次的選挙」としての2010年参院選」

境家 史郎（東京大学）

「2010年参院選における政策的対立軸」

竹中 治堅（政策研究大学院大学）

「2010年参院選と参院選後の政治過程の意義」

討論者： 山田 真裕（関西学院大学）・星 浩（朝日新聞社）

◆総会（17時45分～18時30分）

◆懇親会（18時45分～）

第2日 5月15日（日）

◆分科会 G・H・I（10時00分～12時00分）

分科会 G 比較部会（欧州） 「選挙の国際比較」

司会者： 網谷 龍介（津田塾大学）

報告者： 安武 裕和（名古屋大学大学院） 「スウェーデンとイタリアの普通選挙権と比例代表制に関する分岐点」

中井 遼（早稲田大学大学院） 「誰が有権者となるのか—中東欧の国籍取得要件に関する計量的実証—」

矢内 勇生（早稲田大学）

「OECD 諸国における経済格差と投票率」

討論者： 富崎 隆（駒澤大学）・三竹 直哉（駒澤大学）

分科会 H 地方部会 「「首長」をめぐる政治過程」

司会者： 堤 英敬（香川大学）

報告者： 石上 泰州（平成国際大学） 「地方選挙における政党のプレゼンス」  
砂原 庸介（大阪市立大学）・土野 賢（慶應義塾大学）  
平野 淳一（神戸大学） 「地方政党の台頭と選挙政治」  
討論者： 伊藤 光利（関西大学） 「市長をめぐる選挙過程—候補者属性と選挙結果の分析から—」

#### 分科会Ⅰ 方法論部会 「投票行動研究における実験アプローチ」

司会者： 河野 勝 （早稲田大学）  
報告者： 村上 剛 （University of British Columbia）  
「Candidates' ethnic background as a heuristic: How does it influence voting behavior?」  
井手 弘子（筑波大学） 「Experimental Study of Group Deliberation」  
山田 恭平（イエール大学大学院）・Alan S. Gerber（Yale University）  
「Testing Social Psychological Theories regarding Social Norms Using a Field Experiment in Japan」  
討論者： 肥前 洋一（北海道大学）・渡部 幹（早稲田大学）

#### ◆理事長との懇談会（13時00分～13時30分）

#### ◆分科会Ⅱ ポスターセッション（13時30分～14時50分）

##### 「選挙研究のフロンティア」

稲増 一憲 （武蔵大学） 「有権者教育としての選挙管理委員会インターンシップ活動—模擬投票の試みを中心に—」  
西川 美砂 （ボール州立大学） 「政権政党と内閣の安定性とそのつながり」  
清水 直樹 （高知短期大学） 「利益誘導政治と金融政策の関係」  
田中 智和 （関西大学大学院） 「小沢一郎がいなかったら政権交代は起きなかったのか？—はたして小沢一郎は選挙に強いのか？—」  
遠藤 晶久 （早稲田大学大学院） 「組織加入・経済投票・選挙制度」  
沼口 祐季 （九州大学大学院） 「2010年参院選における自由民主党の候補者選定過程と予備選挙の研究」  
前田 幸男 （東京大学） 「閣僚の辞任・更迭と内閣支持率」

- 大村 華子 (京都大学大学院) 「Government's Distribution Politics and Public Opinion in the Developed Countries: The Guns-Butter Ratio Matters」
- 三船 毅 (愛知学泉大学)・中村 隆 (統計数理研究所)  
「歴史的経験の重層化による政治不信の蓄積」
- 豊田 紳 (早稲田大学大学院) 「民主化期選挙と政治暴力—メキシコ地方自治体選挙, 1990-2000—」
- 堀田 敬介 (文教大学) 「国政選挙における一票の格差の現状と対策」
- 亀ヶ谷 雅彦 (山形県立米沢女子短期大学)  
「山形県婦人連盟の公明選挙運動」

◆分科会K ラウンドテーブル (15時00分~17時00分)

「選挙研究における歴史分析, 計量分析, ジャーナリズム: 選挙結果をどう説明するか?」

モデレータ : 森 裕城 (同志社大学)

講演者 : 西川 賢 (津田塾大学) 「歴史的手法による選挙研究の方法—過程追跡と科学的説明に基づく事例研究に関する試論—」

菅原 琢 (東京大学) 「選挙研究と現代日本政治」

桶田 敦 (TBS) 「世論調査からどのように比例議席予測を導いたか—2010年参議院選挙から—」

## 2010 年度日本選挙学会賞

日本選挙学会賞は、会員相互の研究交流の促進と広い意味の選挙研究の発展を目的として、2009 年度に創設されました。学会賞には、『選挙研究』に掲載された会員の優れた投稿論文を対象とする「優秀論文」、研究会における会員の優れた論文報告を対象とする「優秀報告」、研究会のポスターセッションにおける会員の優れた研究発表を対象とする「優秀ポスター」、の3つの賞が設けられています。

2010 年度の受賞者は次のとおりです。

### 【優秀論文】

和田 淳一郎（横浜市立大学）

「ナッシュ積（ナッシュ社会的厚生関数）に基づいた1票の不平等の研究」

### 【優秀報告】

大村 華子（京都大学）

「戦後日本政治における動態的代表-政策は世論によって規定されてきたのか-」

濱本 真輔（日本学術振興会）

「民主党のキャリア・パスと役職配分ルール」

### 【優秀ポスター】

荒井 紀一郎（中央大学）

「争点の種類と争点投票-対立軸の認知がうみだす投票行動のパターン-」

木村 昌孝（茨城大学）

「フィリピンの選挙行政における情報通信技術（ICT）の導入」

西川 賢（日本国際問題研究所）

「1952 年の共和党大統領予備選挙におけるアイゼンハワーの中道化に関する分析的叙述：第五次政党制下における共和党の戦略形成」

## 講評

去年に引き続き学会賞を選考する任に当たった者として、今年も、去年よりまたさらに、本学会の研究活動の多様性と質の高さが感じられる候補作が数多く最終選考まで残り、大きな感慨を受けましたことを、まず喜びをもって会員みなさまにご報告いたしたく存じます。論文賞については、今年を対象が5本あり、とりわけ「贅沢な」選考となりました。それぞれアプローチが異なり、委員の間ではさまざまな議論が交わされましたが、最終的には和田会員の論文の独創性をもっとも高く評価されました。報告賞については、去年よりも少ない2点の受賞となりました。どちらも、荒削りな部分がないわけではありませんが、壮大な問題、誰も取り組まなかった問題に果敢に挑戦した、ということが評価され選ばれました。ポスター賞については、複数の委員が推薦したものを中心に、3点が選ばれ

ました。総じて、中堅と若手の伸びやかな研究活動が感じられる報告／論文が多く、学会の将来に明るい展望が開けていると確信できました。来年以降も、本学会が自由で多様性に満ちた研究活動を追求していくこと、そして学会賞がそのためのひとつの励みとなることを、切に願っております。

2010 年度学会賞選考委員長 河野 勝

[目次へ](#)

『選挙研究』 目次

第 27 卷 1 号

はじめに	増山 幹高
<b>[特集] 選挙研究の現状と課題</b>	
有権者の政治的判断をめぐる研究動向：理性か感情か	中村 悦大
実験室実験による投票研究の課題と展望	肥前 洋一
政治代表の多国間比較と日本政治分析の可能性	大村 華子
政党システムの分析における地方と新党	砂原 庸介
日本政治史における選挙研究の新動向	小宮 一夫
社会階層論における政治意識—社会構造と政治変動—	井出 知之
ネット時代の政治コミュニケーション—メディア効果論の動向と展望—	小林 哲郎 稲増 一憲
選挙研究における因果推論の研究動向	飯田 健 松林 哲也
<b>[独立論文]</b>	
政治的洗練性が規定する態度の安定性	山崎 新 荒井紀一郎
<b>[書評]</b>	
上川龍之進 『小泉改革の政治学—小泉純一郎は本当に「強い首相」だったのか』	高安 健将
白鳥浩（編著）『政権交代選挙の政治学—地方から変わる日本政治』	山田 真裕

斎藤淳『自民党長期政権の政治経済学—利益誘導政治の自己矛盾』

小宮 京

辻中豊・森裕城（編著）『現代社会集団の政治機能』

丹羽 功

日本選挙学会年報『選挙研究』執筆要領・論文投稿規程・論文執筆の手引  
ICPSR 国内利用協議会の加盟募集  
SSJ データアーカイブより，データ寄託のお願い  
英文要約

第 27 卷 2 号

- はじめに 増山 幹高
- [特集 1] 2010 年参議院通常選挙**
- 「二次的選挙」としての参院選 今井 亮佑  
日野 愛郎
- 2010 年参院選における政策的対立軸 境家 史郎
- 候補者選定過程における政党執行部の影響力  
—2010 年参議院選挙の民主党を事例に— 鶴谷 将彦
- 2010 年参院選挙後の政治過程—参議院の影響力は予算にも及ぶのか— 竹中 治堅
- [特集 2] 海外における選挙研究**
- Political Cycle of Voters' Understanding of the New Electoral  
System: The Case of Taiwan Chi HUANG  
Ching-hsin YU
- Examining the “Midterm Loss” in Taiwan:  
An Analysis of the 2009 County Magistrate Election Eric Chen-hua Yu
- 世界の予備選挙—最新事例と比較分析の視角— 庄司 香
- [独立論文]**
- Propensity Score Adjustment for Internet Surveys of  
Voting Behavior: A Case in Japan Tetsuro Kobayashi  
Takahiro Hoshino
- [資料] 最近の選挙結果** 三船 毅



[書評]

Renwick, Alan. *The Politics of Electoral Reform: Changing the Rules of Democracy.*

Misa Nishikawa

吉野孝・前嶋和弘（編著）

『オバマ政権はアメリカをどのように変えたのか』

待鳥 聡史

山本健太郎『政党間移動と政党システム』

濱本 真輔

河村和徳『市町村合併をめぐる政治意識と地方選挙』

平野 淳一

村瀬信一『明治立憲制と内閣』

下重 直樹

日本選挙学会賞

2010 年度日本選挙学会総会・研究会日程

日本選挙学会会則

日本選挙学会会費規程

日本選挙学会理事・監事候補者選出規程

日本選挙学会編集委員会規程

日本選挙学会査読委員会規程

日本選挙学会役員

日本選挙学会資料：歴代理事長一覧、総会・研究会開催校一覧

日本選挙学会年報『選挙研究』執筆要領・論文投稿規程・論文執筆の手引

ICPSR 国内利用協議会の加盟募集

SSJ データアーカイブより、データ寄託のお願い

英文要約

[目次へ](#)

## 各委員会からのお知らせ

### 【企画委員会から】

次回の日本選挙学会の総会・研究会は、2012年5月19日（土）・20日（日）に筑波大学（大会運営委員長・竹中佳彦理事）で開催されます。

研究会では12の分科会、すなわち比較部会Ⅰ「アジアの選挙」、比較部会Ⅱ「中東諸国の選挙」、歴史部会「政党政治と選挙のあいだ一周辺からみた選挙と正当性」、法律・制度部会「選挙制度の思想と管理」、政治過程部会「政治過程におけるジェンダー」、地方部会「地方選挙とポピュリズム」、社会心理部会「The Comparative Study of Electoral Systems データの活用」、方法論部会「政治学方法論の最前線：チュートリアル」、議会部会「議員と政党」、書評セッション「竹中治堅『参議院とはなにか』」、および2つの自由論題セッションが企画されています。また例年通り、2日目の午後にはポスターセッション「選挙研究のフロンティア」が行われます。

1日目に開催される共通論題のテーマ「議員定数不均衡問題を考える」では、議員定数不均衡問題に対して憲法学、経済学、政治学の立場からの多面的な検証が行われる予定です。また2日目に予定している書評セッションは初めての試みになります。いずれもふるってのご参加をいただければと存じます。

プログラムの詳細は、近日中に学会のウェブサイトで公開の予定です。会員各位にはご確認いただければ幸いです。また、今後のスケジュールは、

- 2月16～28日 : 報告概要アップロード期間
- 3月3日 : 報告概要一般公開開始
- 4月16～30日 : 報告論文アップロード期間
- 5月1日 : 報告論文ダウンロード開始（会員限定）
- 8月19日 : 報告論文アーカイブ移行

となっております。報告論文の公開を望まれない方は、8月19日までに自ら論文削除手続きをしていただけるようになっております。

それでは、会員の皆様と筑波大学にてお会いするのを楽しみにしております。

（企画委員長・山田真裕）

### 【年報編集委員会から】

『選挙研究』第27巻第1号は6月に刊行し、皆様のお手元に届いていることと存じます。第27巻第2号は、5月に開催されました研究会報告をもとに、共通論題の2010年参院選と海外における選挙研究を特集し、査読を通過した投稿論文1本を掲載しております。年内に刊行、発送予定ですので、この御案内に前後してお手元に届くことと存じます。

（年報第27巻担当編集委員長・増山幹高）

『選挙研究』第28巻の年報編集委員会は、第1号の企画および書評の選考を進めております。現在のところ、第28巻第1号では、「政治家のキャリア・リクルートと選挙戦

略（仮）」、「アメリカの保守主義（仮）」といった企画を検討しております。第 28 巻の刊行予定ですが、第 1 号は 2012 年 6 月、第 2 号は 2012 年 12 月の刊行を目途にしております。原則、2012 年 3 月までに査読を通過した論文は第 1 号に、同年 9 月までに通過した論文は第 2 号に掲載される予定です。会員の皆様からの投稿をぜひよろしくお願いいたします。

（年報第 28 巻担当編集委員長・品田裕）

#### ※※※論文投稿と送付先※※※

##### 1. 投稿の申し込み：

投稿は随時受け付けております。論文を投稿できるのは、投稿時点において年会費を完納している日本選挙学会の正会員です。論文を投稿するにあたっては、学会ウェブ上の My JAES で会費納入状況を確認して下さい。なお、会費納入状況は月末締めで更新されますことにご留意下さい。投稿の詳細につきましては、学会ウェブの執筆要領・論文投稿規程 (<http://www.jaesnet.org/download/rules/JJES20110928.pdf>) をご確認ください。

##### 2. 投稿原稿の送付先：

投稿原稿は PDF で editor@jaesnet.org に添付ファイルとして送信ください。投稿資格、様式などを確認のうえ、年報編集委員会より投稿受理の連絡を投稿者にとともに、査読委員会に投稿論文を送付します。投稿後、時間が経過しても（2 週間程度）原稿受理の連絡がない場合、改めて連絡をいただければ幸いです。なお、投稿の際には、

- ①タイトル
  - ②執筆者名
  - ③所属・職名
  - ④連絡先住所・電話番号・FAX 番号・e-mail アドレス
- を記載した添付ファイルも忘れず送信ください。

#### 【査読委員会から】

2008 年度から、学会誌『選挙研究』への投稿論文の採否を判定するために査読委員会が発足いたしております。査読委員会は 6 人のメンバーで構成され、委員長以外のメンバーの氏名は公表されません。査読委員会は、編集委員会から送付された投稿論文について、3 人の匿名のレフリーを選定し、査読を依頼します（非会員に依頼することもあります）。査読委員自身はレフリーにはなりません。査読委員会は、レフリーから寄せられた査読結果報告に基づき、投稿論文の採否を総合的に判定します。この判定のため、査読委員会は、年 4 回、会合を開くことになっています。また査読委員の匿名性を保持するためにも、委員会と、投稿者およびレフリーとの連絡は、もっぱら査読委員長が担当します。

選挙学会では、これまでの委員長、委員会のご尽力で、上記のようなシステムや、具体的な作業マニュアルを整備していただき、論文査読を行っております。投稿者やレフリーの匿名性保持は特に気を使う点でして、私などは竹中佳彦前委員長から引き継いだマニュアルと首っ引きで作業をしております。ただ論文査読といったシステムそれ自体が、日本

の社会科学においてはまだ取り組まれ始めたばかりでもありまして、様々な課題を抱えているようにも思います。今年度の委員会でも、委員会における文書保存や次期委員会への引き継ぎのあり方などを検討しているところです。

最後になりましたが、査読は会員の皆様のレフリーとしてのご協力に依存したシステムであると存じます。これまでも多くの会員の皆様に快くお引き受けいただいております、この場をお借りして御礼申し上げます。

(2011 年度査読委員長・建林正彦)

## 理事会だより

### 【学会賞について】

2011年12月3日に開催された2011年度第3回理事会において、以下の「2012年度日本選挙学会賞要綱」が承認されました。

### 2012年度日本選挙学会賞要綱

日本選挙学会事務局

#### （目的）

1. 日本選挙学会は、会員の優れた研究業績を顕彰するために、本学会に学会賞を設ける。

#### （学会賞の種類）

2. 学会賞として、以下を設ける。

- 1) 優秀ポスター

2012年度研究会のポスターセッションにおける会員の優れた研究発表を対象とする。

- 2) 優秀報告

2012年度研究会における会員の優れた論文報告を対象とする。

- 3) 優秀論文

2012年度に発行された、日本選挙学会年報『選挙研究』（第28巻第1号・第2号）に掲載された会員の優れた投稿論文を対象とする。

#### （選考委員会）

3. 学会賞の選考のため、選考委員会を組織する。選考委員会の構成は、以下の通りとする。

- 1) 選考委員会は、理事長の推薦、理事会の承認を得た選考委員長及び選考副委員長、当該年度の企画委員長、編集委員長、査読委員長によって構成される。

- 2) 選考委員会は、ポスター小委員会、報告小委員会、論文小委員会を組織し、それぞれ小委員会委員を会員に委嘱する。ただし、小委員会委員は公表しない。

- 3の2. 選考委員会および各小委員会の任期は、各委員会の組織された日から学会賞の表彰される当該年次総会までとする。ただし、再任を妨げない。

#### （選考手続き）

4. 学会賞は以下の手続きによって選考する。

- 1) 各小委員会は、対象となる研究業績について第一次選考を行い、第二次選考に残る研究業績を選考委員会に提案する。

- 2) 選考委員会は、各小委員会の提案に基づき、第二次選考を最終選考とし、受賞候補を決定する。

- 3) 選考委員会は、定められた期日までに選考の経過および結果を理事会に報告する。

(表彰)

5. 受賞者それぞれに、賞状および副賞として賞金を授与する。

**【代表派遣について】**

韓国選挙学会との交流規程に基づき、11月に韓国で開催された韓国選挙学会に、本学会は川人貞史会員（前理事長）を派遣いたしました。

[目次へ](#)

## 日本選挙学会 2010年度第3回理事会議事録

日 時：2010年11月27日（土） 14時00分～17時00分  
場 所：同志社大学 今出川・新町キャンパス南 継志館・会議室（セミナールーム 101）  
出席者：西澤理事長，今井事務局長，岩淵，川戸，河野，品田，竹中，平野，増山，森，  
山田（以上，理事），境家，高安，名取（以上，幹事）

議事に先立ち，西澤由隆理事長から挨拶があった。

### 議題

#### ◎ 確認事項（前回議事録）

2010年9月25日（土）開催の2010年度第2回理事会議事録が承認された。

#### ◎ 報告事項

##### 1. 各委員会の活動状況について

###### ■ 企画委員会

平野浩企画委員長から2011年度研究会企画に関する報告があった。前回理事会以降，ポスター発表に対する公募が新規に7件あり（全件につき発表を承認），また新たに「公募報告セッション」を設けるなどした。すべてのセッションの登壇者がすでに確定している。

今後，2011年2月末までに各報告内容のレジュメが，同年4月末までに報告論文がアップロードされる見通しである。

###### ■ 年報編集委員会

池谷知明（2010年度）編集委員長（欠席のため今井亮佑事務局長代理報告）より，10月18日に『選挙研究』第26巻2号用の原稿が出版社に入稿され，現在は著者校正の段階にあることが報告された。

###### ■ 年報編集委員会

増山幹高（2011年度）編集委員長から，『選挙研究』第27巻1号に関する報告があった。同号では，学会発足30周年に際して，選挙研究の各分野における動向をレビューする「研究動向論文」を公募することとした。2010年12月末まで応募を受け付け，翌年1

月中旬頃に編集委員会で採択論文を決定する予定である。同号の内容は、以上の研究動向論文 7, 8 本に加え、投稿論文を 2 本程度とする。第 27 巻 2 号については、2011 年度研究会報告論文を中心に内容を組む予定である。

#### ■ 査読委員会

竹中佳彦査読委員長より、現在、投稿論文 4 本について審査を進めつつあることが報告された。11 月以降に新規に投稿された論文もあり、これについてはこれからレフリーを選定するという段階である。

#### ■ 電子ジャーナル特別委員会

森正委員長（欠席のため今井事務局長代理報告）より、年報既刊分について現在電子化作業中である旨の報告があった。原稿の PDF ファイルは木鐸社からすでに入手しており、アップロードに向けてファイル変換作業を進めている段階にある。

また現在、論文掲載時における電子化作業を円滑にするためのワークフロー確立に努めている。

## 2. 2011 年度総会・研究会の開催について（関西学院大学）

山田真裕 2011 年度大会運営委員長より、現在は学生アルバイトの募集等を進めており、同大会開催準備が順調に進んでいると報告された。

## 3. 2012 年度総会・研究会の開催について（筑波大学）

竹中 2012 年度大会運営委員長から、前回理事会以降とくに大きな進展はないとの報告があった。

## 4. 韓国選挙学会との交流について

西澤理事長から、11 月 19 日（金）に行われた韓国政治学会との交流について報告があった。同学会では西澤理事長による報告および質疑応答が行われた。同学会が、理事間の懇親やデータの共有など、さまざまな面での日本選挙学会とのさらなる交流の進展を期待していることが、西澤理事長から報告された。

## 5. 学会賞選考委員会について

今井事務局長より、2011 年度学会賞選考委員長を選任した旨報告された。

## 6. 2010 年度学会賞について

河野勝 2010 年度学会賞選考委員長より、今年度学会賞の選考結果が報告された。今年度は優秀論文賞 1 点、優秀報告賞 2 点、優秀ポスター賞 3 点を選出したとのことであった。

さらに河野委員長から、賞選考に関する以下の問題点の指摘がなされた。



- (1) 選考委員の業績が選考対象となる可能性があること
- (2) 優秀ポスター賞の選考は時間的制約が非常に厳しいこと
- (3) 選考対象者の当学会における過去の業績を十分に検討しなければ、実質的に同内容の業績に対して2回以上賞（例えば、t-1年度報告賞とt年度論文賞）を与える事態がありえること

河野委員長からの示唆もふまえ、解決策について検討した。

## ◎ 審議事項

### 7. 2011年度学会賞について

今井事務局長より「2011年度日本選挙学会賞要綱」案が示され、これを承認した。

### 8. 「日本選挙学会編集委員会規程」他について

「日本選挙学会編集委員会規程」「日本選挙学会年報『選挙研究』執筆要領」「日本選挙学会年報『選挙研究』論文投稿規程」につき、事務局提示の修正案に関する審議が行われた。次回理事会を開催する前に、今回の議論を反映した修正案を提示する予定である。

### 9. その他

#### (1) 入退会申込者について

1名の退会、および新規入会希望者1名の入会を承認した。

#### (2) その他

特になし。

#### (3) 意見交換

以下の点について問題提起、意見交換があった。

- 会員から学会事務局に対する、研究会等の告知依頼の取り扱いについて
- 次回理事会の開催場所・日時の決定について
- 『選挙研究』における英語論文の割合低下について

以 上

## 日本選挙学会 2010年度第4回理事会議事録

日 時：2011年3月5日（土） 14時00分～17時00分

場 所：同志社大学 今出川校地 光塩館（法経研究室棟） 地下会議室

出席者：西澤理事長，今井事務局長，阿部，池谷，河崎，品田，竹中，谷，谷口，平野，  
三船，森，山田（以上，理事），境家，高安（以上，幹事），森（電子ジャーナル  
特別委員長，オブザーヴァー）

### 議題

#### ◎ 確認事項（前回議事録）

2010年11月27日（土）開催の2010年度第3回理事会議事録が承認された。

#### ◎ 報告事項

##### 1. 各委員会の活動状況について

###### ■ 企画委員会

平野浩企画委員長より，2011年度大会のプログラムが確定し，学会ホームページにアップロード済みであること，また報告予定者による「報告概要」のアップロード（2月末締め）もほぼ完了していることが報告された。

また同大会のスケジュールに関連して，西澤由隆理事長より，大会2日目昼休みに理事長と会員との「懇談会」を開いてはどうかという提案があった。

###### ■ 企画委員会

山田真裕企画委員長から，2011年度企画委員名簿について説明があった。また以下の3点について問題提起等があった。

- (1) 「部会」の在り方について
- (2) 「東アジア比較部会」について
- (3) 「書評セッション」について

###### ■ 年報編集委員会

池谷知明（2010年度）編集委員長より，年報第26巻2号が1月に会員に届いた旨の報告があった。

###### ■ 年報編集委員会

増山幹高（2011 年度）編集委員長（欠席のため今井亮佑事務局長代理報告）より、第 27 巻 1 号において、当学会発足 30 周年に合わせ「選挙研究の現状と課題」と称した特集を組む予定であることが説明された。同特集に関する論文 9 本のほか、書評 4 本が予定されている。

#### ■ 査読委員会

竹中佳彦査読委員長より、投稿論文の査読に関する最新の状況について報告があった。

#### ■ 電子ジャーナル特別委員会

森正電子ジャーナル特別委員長より、電子化作業の現状について報告があった。

### 2. 2011 年度総会・研究会の開催について（関西学院大学）

山田 2011 年度大会運営委員長より、同大会会場の案内、および設備面での説明があった。

### 3. 2012 年度総会・研究会の開催について（筑波大学）

竹中 2012 年度大会運営委員長から、同大会の準備状況について説明があった。同大会においては、宿泊施設の斡旋は行わない方針であると報告された。

### 4. ニュース・レターについて

今井事務局長より、年初に、ウェブ上でニュース・レター 33 号を発行した旨が報告された。紙媒体での発行からウェブ配信に変更されたのにあわせ、デザインを一新すると共に、情報量を増加させている。

### 5. 学会事務委託について

今井事務局長より、大学生協学会支援センターに対する学会事務委託に関する事項について、説明があった。

### 6. 2010 年度日本選挙学会賞について

今井事務局長より、2010 年度日本選挙学会賞受賞者（論文賞 1 名、報告賞 2 名、ポスター賞 3 名）全員から、総会での表彰、懇親会での授賞式に参加の意思があることを確認していると報告された。

#### ◎ 審議事項

### 7. 査読委員会について

西澤理事長より、建林正彦会員（現・査読副委員長）の新委員長就任が提案され、承認

された。また、新副委員長を選任した旨の報告がなされた。

## 8. 「日本選挙学会編集委員会規程」他について

各種規程等に関する事務局修正案に対し、審議が行われた。その結果、「日本選挙学会編集委員会規程」「日本選挙学会年報『選挙研究』論文投稿規程」「日本選挙学会査読委員会規程」については修正案が承認された。「日本選挙学会年報『選挙研究』執筆要領」に関しては継続審議（竹中査読委員長が再検討を行う）とし、9月に開催される理事会で決定される予定である。

## 9. 2011年度予算について

今井事務局長から2011年度予算案について説明があり、承認された。

## 10. その他

### （1）入退会申込者について

新規入会希望者2名、退会希望者4名について承認された。

### （2）その他

特になし。

### （3）意見交換

現在、学会ホームページの管理は、名取良太幹事に一任された状態にあるが、将来を見据え、事務局下の組織として3~4名からなる「ウェブ担当ワーキンググループ」を設けることを検討している旨、今井事務局長から紹介された。

以 上

# 日本選挙学会

## 2011 年度第 1 回理事会議事録

日 時：2011 年 5 月 14 日（土） 12 時 05 分～12 時 55 分

場 所：関西学院大学・上ヶ原キャンパス

出席者：西澤理事長，今井事務局長，岩淵，石生，石田，池谷，河崎，河村，川戸，河野，小西，品田，玉井，谷，谷口，竹中，平野，増山，三船，山田（以上，理事），名取，境家，日野，荒井（以上，幹事），河野，堤（以上，監事），森（オブザーヴァー）

### 議題

#### ◎ 確認事項

2011 年 3 月 5 日（土）開催の 2010 年度第 4 回理事会議事録が承認された。

#### ◎ 報告事項

##### 1. 各委員会の活動状況について

###### ■ 年報編集委員会

池谷知明（2010 年度）編集委員長より、『選挙研究』第 26 巻 1 号の奥付に記載された事項に誤りが発見されたため，櫻田会と日本学術振興会に電話にてお詫びを申し上げ，「お詫びと訂正」を選挙学会 HP にアップロードするというご了承頂いた旨，報告があった。

###### ■ 年報編集委員会

増山幹高（2011 年度）編集委員長より，年報第 27 巻 1 号，2 号の編集状況および内容に関する説明があった。第 27 巻 1 号では「選挙研究の現状と課題」と題する公募論文による特集を組む。同巻 2 号では 2011 年度研究会共通論題（2010 年参院選と「政権交代後の選挙」）報告論文を中心とする特集を予定している。

###### ■ 査読委員会

竹中佳彦査読委員長より，投稿論文の査読に関する最新の状況について報告があった。

##### 2. 2011 年度総会・研究会の開催について（関西学院大学）

山田真裕 2011 年度大会運営委員長より，同大会が順調に進行している旨の報告がなされた。

### **3. 2012 年度総会・研究会の開催について（筑波大学）**

竹中 2012 年度大会運営委員長より、2012 年度大会の準備状況に関する報告があった。

### **4. 2013 年度総会・研究会の開催について（京都大学）**

西澤由隆理事長より、2013 年度総会・研究会を京都大学で開催することが報告された。

### **5. 2011 年度日本選挙学会賞選考副委員長について**

西澤理事長より、2011 年度学会賞選考副委員長への就任を打診した会員から内諾を得た旨報告があった。

### **6. 科研費について**

今井亮佑事務局長より、2011 年度科研費として 100 万円の交付を受けることができたとの報告があった。

### **7. 事務局幹事について**

今井事務局長より、高安健将幹事の退任に伴い、日野愛郎会員および荒井紀一郎会員が新たに幹事に就任する旨が報告された。

### **8. 学会 HP について**

学会ホームページの 2011 年度の開発状況について、名取良太幹事から説明があった。

### **9. 2010 年度決算・監査報告について**

今井事務局長より 2010 年度決算に関する趣旨説明がなされ、河野武司監事、堤英敬監事から適正に処理されている旨の監査報告がなされた。

## **◎ 審議事項**

### **10. 2011 年度予算案について**

今井事務局長より 2011 年度予算案に関する趣旨説明がなされた。審議を経て、経常部分 13,714,147 円、特別会計の年報発行準備金 10,253,789 円からなる 2011 年度予算案を承認した。

### **11. 会費払込用紙の変更について**

今井事務局長の説明により、年会費の振込手数料を 2012 年度より振込者（会員）負担とする形に変更することが提案された。総会での承認を経たうえでこの変更を実施することが承認された。

## 1 2. 報告概要，出欠返信葉書の郵送について

大会報告概要および出欠返信葉書について，現在は希望者に郵送することになっているが，このサービスを今後も続けるべきかが審議された。審議の結果，同サービスは今後も継続することに決定した。

## 1 3. WEB 担当 WG について

今井事務局長より，学会ホームページの管理を担当するワーキンググループを新たに組織することが提案された。同 WG は事務局下に置かれ，幹事 1 名を座長（初代は名取幹事）とする。総人数は 3～4 名とし，人選は事務局に一任とする。

審議を経て，同提案を承認した。

## 1 4. 選挙人名簿案・被選挙人名簿案の周知期間と方法について

今井事務局長より，今年秋に予定されている理事選挙に関して，前回 2009 年時の方法を踏襲する方針が示された。岩淵美克選挙管理委員長から，同委員会と事務局との間での仕事の割り振りのあり方について意見が出された。これを受けて，各種規程との齟齬がない形で役割分担がなされるべきということで，事務局一任となった。

## 1 5. 年報第 28 巻担当編集委員長の選任について

年報第 28 巻（2012 年度発行）担当の編集委員長として品田裕理事を選任した。

## 1 6. その他

### （1）入退会申込者について

7 名の新規入会者を承認した。

### （2）その他

特になし。

### （3）意見交換

今井事務局長から，2011 年度の理事会開催日程（案）が説明された。

以 上

## 日本選挙学会 2011年度第2回理事会議事録

日 時：2011年9月10日（土） 14時00分～17時00分

場 所：同志社大学・今出川校地 光塩館（法経研究室棟）地下会議室

出席者：西澤理事長，今井事務局長，河村，川戸，谷口，竹中，平野，増山，森，山田  
（以上，理事），荒井，境家，名取（以上，幹事），建林（査読委員長，オブ  
ザーバー）

### 議題

#### ◎ 確認事項（前回議事録）

2011年5月14日（土）開催の2011年度第1回理事会議事録が承認された。

#### ◎ 報告事項

##### 1. 各委員会の活動状況について

###### ■ 企画委員会

山田真裕企画委員長より，2012年度大会の報告公募にこれまで16件の応募があり，各企画委員による企画作業も順調に進んでいる旨の報告があった。

###### ■ 年報編集委員会

増山幹高編集委員長（第27巻担当）より，年報第27巻2号の内容説明があった。また同号の入稿がほぼ終わっているとの報告があった。

###### ■ 査読委員会

建林正彦査読委員長より，投稿論文の査読に関する最新の状況について報告があった。

###### ■ 学会賞選考委員会

特に報告事項はなかった。

###### ■ 電子ジャーナル特別委員会

名取良太幹事より，電子ジャーナル化作業に関する最新の状況について報告があった。また近いうちに特別委員会は廃止される予定であるが，今後どのような体制で電子化作業を進めるかはなお検討中であると報告された。



## 2. 2011 年度総会・研究会の開催について（関西学院大学）

山田 2011 年度大会運営委員長より、同大会が当初予算どおりの収支で終わることができたとの報告があった。

## 3. 2012 年度総会・研究会の開催について（筑波大学）

竹中佳彦 2012 年度大会運営委員長より、同大会の準備状況について報告があった。

## 4. 2013 年度総会・研究会の開催について（京都大学）

今井亮佑事務局長より、鈴木基史会員による 2013 年度大会開催に向けての挨拶文が紹介された。

## 5. 韓国選挙学会との交流について

今井事務局長より、11 月 18 日に開催される韓国選挙学会年次大会において川人貞史前理事長にご報告頂く旨の報告があった。

## 6. 科研費について

今井事務局長より、2011 年度の研究成果公開促進費が 100 万円から 70 万円に減額された旨の報告があった。

### ◎ 審議事項

## 7. 理事選挙について

今井事務局長より、2011 年度理事候補者選挙における選挙人名簿案、被選挙人名簿案、選挙日程案が示された。審議を経て、選挙人名簿、被選挙人名簿についてはこれを承認した。選挙日程については、事務局一任の形でさらに検討することとした。

## 8. 研究プロジェクトへの学会の「後援」について

西澤由隆理事長から、2012 年に日本で開催される予定の CSES (Comparative Study of Electoral Systems) プロジェクトシンポジウムに対して、当学会として何らかの後援を行いたいとの提案があり、審議を経てこれを承認した。

また一般論として、各種研究プロジェクトからの後援依頼に対する当学会の対応について検討した。審議を経て、当学会としては原則一切そうした後援依頼を受けないという方針が確認された。

## 9. 韓国選挙学会への派遣者に対する「補填」について

西澤理事長より、韓国選挙学会派遣者が（先方から受け取る 100 万ウォンと合わせて）10 万円を旅費として受け取れるよう、為替変動による差額分を当学会が補填してはどう

かとの提案があった。同件については、事務局においてまず韓国選挙学会と結ばれた協定を確認したうえで再検討することとした。

## **10. 投稿論文の原稿の分量について**

竹中 2010 年度査読委員長より「日本選挙学会年報『選挙研究』執筆要領」の改定案が示され、若干の語句修正を加えたうえでこれを承認した。

また竹中委員長からは、査読資料の保管、引き継ぎのあり方に関する問題提起があったが、同件については継続審議となった。

## **11. その他**

### **(1) 入退会申込者について**

新規入会希望者 7 名，退会希望者 2 名（うち法人会員 1）について承認された。

### **(2) その他**

とくになし。

### **(3) 意見交換**

河野武司監事から「非会員報告者・討論者（・査読者）への謝礼が委員会活動費と別枠で支払われているが、これは本来、委員会活動費の枠内で支払われるべきではないか」との指摘があり、意見交換を行ったが、現在の方法を維持することで一致した。

以 上

[目次へ](#)

## 事務局だより

### 【新入会員】

昨年度のニュース・レター発行後に入会申請が承認された方は、以下の通りです（申請時の所属を記載しております）。

笹部真理子	（学習院大学）	田中 嘉彦	（国立国会図書館）
渡辺 博明	（大阪府立大学）	堀江 孝司	（首都大学東京）
辻 由希	（立命館大学）	尾野 嘉邦	（国際大学）
竹内 桂	（明治大学）	伊東 久智	（早稲田大学）
成田 洋平	（早稲田大学）	若月 剛史	（東京大学）
梅田 道生	（東京大学）	林 超琦	（国立政治大学）
鬼木 浩文	（毎日新聞社）	野口 晃	（共同通信社）
西川 雅史	（青山学院大学）	津田 博	（川崎医療福祉大学）
川本 俊三	（朝日新聞社）		

### 【退会会員】

昨年度のニュース・レター発行後、20名の会員が退会され、1名の会員が今年度末で退会予定です。

### 【現在の会員数】

上記の異動で、2010年12月現在の会員数は、500名（うち1名は今年度末で退会予定）となっております。

### 【会費の納入について】

会費は郵便振替によって納入して頂いております。口座番号と会費は以下の通りです。

#### 口座番号

振込先（加入者名）	：	日本選挙学会
口座番号	：	00170-2-31731

#### 年会費

正会員（大学院生以上）	：	8,000円
法人会員	：	50,000円
準会員（学部学生のみ）	：	2,000円

会費を納入された方には、該当する年度の『選挙研究』、『選挙学会紀要』を送付いたします。

過去の会費の滞納状況によっては、学会からの事務連絡、研究会での報告、年報への投

稿資格などが停止される場合もあります。理事選挙のある年の7月1日時点で当該年度の会費が未納の場合、理事選挙における選挙権・被選挙権が停止されます。会費は、滞納がある場合、滞納分から充当していきます。

2008年度から、滞納猶予期限3年を経過した会員の方には自動的に退会して頂くことになっております。2012年3月末日で3年間会費未納の場合、2011年度をもって自動退会扱いとなります。

なお、会費納入状況につきましては、学会HPの会員用ページ(My JAES)でご確認下さい(<https://www.jaesnet.org/myjaes/index.php>)。

### 【2012年度総会・研究会について】

2012年度の総会・研究会は、2012年5月19日(土)・20日(日)の2日間、竹中佳彦大会運営委員長の下、筑波大学(茨城県つくば市)で開催される予定です。

宿泊については、開催校では準備いたしませんので、各自でご手配下さい。懇親会は、19日(土)にホテルグランド東雲で実施いたします。奮ってご参加下さい。

### 【学会ホームページについて】

2009年に学会HPの全面的なりリニューアルを行うとともに、会員用ページ(My JAES)を導入しました。My JAESでは、会員情報(「所属」「役職」「メールアドレス」「生年」)・書類送付先(「郵便番号」「住所」「電話番号」「FAX番号」(電話・FAX番号の登録は任意))の変更、会費納入状況の確認を、会員ご自身の手で行って頂くことができますので、是非ご活用下さい。特に、書類送付先については、誤配・遅配などの原因となりますので、会員各自で随時更新して頂きますようお願い申し上げます。また、研究会での報告の応募、報告概要や論文のダウンロード・アップロードを学会HPで行うようになっております。今後、論文投稿なども学会HPで行うよう開発を進めて参ります。

### ※※※事務局からのお願い※※※

事務局からの各種ご案内も、学会HPやメールを活用して行うようになっておりますが、登録されているメールアドレスに誤りがある場合、配信不能となってしまいます。My JAESにて、ご自身のメールアドレスに誤りがないか、ご確認頂きますようお願い申し上げます。

### 【『選挙研究』の電子アーカイブ化・電子ジャーナル化について】

すでにご案内したとおり、日本選挙学会年報『選挙研究』第1号から第23号については、電子アーカイブ化が済み、独立行政法人・科学技術振興機構(JST)のJournal@rchive

([http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnltop\\_ja.php?cdjournal=jaes1986](http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnltop_ja.php?cdjournal=jaes1986))  
で公開されております。是非ご活用下さい。

既刊の第 24 巻から第 27 巻 1 号については、電子ジャーナル特別委員会（森正委員長）  
において、電子ジャーナル化の準備（J-Stage へのアップロードに向けたファイルの変換  
作業）を行っております。併せて、年報第 27 巻担当編集委員会（増山幹高委員長）、第  
28 巻担当編集委員会（品田裕委員長）では、『選挙研究』の発行と電子ジャーナル化の準  
備を同時に進めるための作業フローの確立を検討しております。

なお、『選挙研究』に掲載される論文等は、発行から 2 年が経過した後、原則として電  
子化されます。ご執筆頂く方々には、この旨ご了解頂きますよう、お願い申し上げます。

何かご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせ下さい。

### 【事務局について】

日本選挙学会の事務局は、理事長の所属する同志社大学に所在しておりますが、事務局  
長・幹事は以下の 4 名が務めております。学会に関する各種お問い合わせは、事務局長ま  
でお願いいたします。

事務局長：今井 亮佑（首都大学東京法学系）

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 首都大学東京法学系

Tel：042-677-1111（代表）

E-mail：office@jaesnet.org

幹 事：荒井 紀一郎（中央大学総合政策学部）

境家 史郎（東京大学社会科学研究所）

名取 良太（関西大学総合情報学部）

日野 愛郎（早稲田大学政治経済学術院）

[目次へ](#)